

平成25年度 学校評価に対する最終報告書

石川県立七尾城北高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1 授業改善を進めて、基礎・基本の定着を図る。	① 教材や指導方法を工夫し、わかりやすい丁寧な授業を実施する。	授業改善に取り組み、授業の内容が理解できる生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C	IT機器等を用いた研究授業（計7回）・その後の反省会を全員で行い、共通理解のもと本時の目標・流れを明示してポイントを絞った授業に努めた。“授業の目標や学習内容の理解ができた”生徒は前期に比べ、4ポイント上昇したが70%にとどまった。次年度は授業の振り返りを重視し、努力を継続したい。
	② 基本的な授業態度の徹底を図り、生徒が集中し、主体的に学習に取り組むようにさせる。	授業に積極的に取り組んでいると思う生徒の割合が、 A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C	努力目標を教室掲示して注意を喚起し、生徒が主体的に学習に取り組む授業の改善に努めた。“授業に意欲的に取り組んでいる”生徒は前期に比べ、6ポイント上昇し76%であった。“考える時間や発言する機会がある”生徒は、4ポイント上昇し77%であった。次年度は、生徒に達成感を持たせる授業を工夫したい。
学校関係者評価委員会の評価	IT機器等を利用して分かりやすい授業を今後も進めてほしい。 生徒側の授業アンケート結果では、「積極的に参加している」の項目は伸びていないのが残念だが粘り強く指導してもらいたい。			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	授業の振り返りを重視し、生徒に達成感を持たせるために、IT機器を用いて工夫した授業を展開していく。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
2 学校生活全般を通じて、コミュニケーション能力・自己表現力の向上を図る。	① 生徒会役員による生徒会だよりの発行、挨拶運動等を通して、生徒間のコミュニケーション能力の向上を図る。	生徒会役員が主体となる活動が行う活動が、 A 年間15回以上行われた。 B 年間10回以上行われた。 C 年間6回以上行われた。 D 年間5回以下行われた。	A	生徒会主体で行われた活動は、さわやか運動（挨拶運動）・生徒会だよりの発行・生徒会主催の学校行事等で年間15回取り組むことができた。生徒会主催行事の学校祭では、普段は人と接することが苦手な生徒も積極的にコミュニケーションを取り、楽しむ様子が見られた。 後期生徒会役員は、2年生主体で全員未経験者だったので、活動計画作り等に苦労していたが、お互いに協力し、生徒会活動を盛り上げた。この経験が次年度につながるよう支援していくことが大切である。
	② 教職員の生徒理解やコミュニケーション能力の向上を図るとともに生徒指導の円滑化を目指す。	生徒理解のための情報交換会やコミュニケーション関連の校内研修会を A 年間15回以上開催した。 B 年間10回以上開催した。 C 年間6回以上開催した。 D 年間5回以下開催した。	B	生徒理解のための情報交換会を10回、職員研修会を2回開催することができた。 また、定期的開催した「いじめ問題に特化した情報交換会」や「気になる生徒についての情報交換会」は、生徒理解や該当生徒に対して早期に手立てを講じるための有意義なものであった。 本年度は、コミュニケーション能力の向上をメインテーマとした職員研修会を実施することができなかったため、次年度は各種研修会の中から適切なものを選び、実施したい。
学校関係者評価委員会の評価	2年生中心の生徒会活動は積極的ですが、来年度の継続のためには、先生方の支援も必要ではないか。		学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	学校行事を生徒中心の活動にするような見直しを行い、今年度以上に積極的に出来るようバックアップする。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
3 キャリア教育を推進し、個々の進路実現を目指す。	① 就業やインターンシップ等の体験を通して、勤労観・職業観を育み、進路選択の能力を高める。	<p>現在、就業していない生徒で、アルバイトやインターンシップに取り組んだ生徒の割合が</p> <p>A 80%以上である</p> <p>B 60%以上である</p> <p>C 40%以上である</p> <p>D 40%未満である</p>	C	<p>就業していなかった16名の生徒で、アルバイトに就いた生徒は8名、インターンシップに取り組んだ生徒は2名で（1名重複）、<math>9/16 = 56\%</math>であった。</p> <p>新たな取り組みとして、企業見学（参加者11名）を行った。生徒は、地元企業の理解を深めるとともに、就業への意欲・関心を高めた。</p> <p>アルバイトを始めた生徒には、学校生活と両立させたうえで、進路実現につながるよう指導を強化したい。</p> <p>次年度以降、就業していない生徒には、企業見学やインターンシップなど体験的な進路学習を続け、各学年の特色に応じた体系的な指導に努めたい。</p>
	② 教育振興会会員と学校の繋がりを強め、就職・アルバイトの支援を依頼する。	<p>就職・就業体験を受け入れてもらった会員企業が</p> <p>A 7社以上である</p> <p>B 5社以上である</p> <p>C 3社以上である</p> <p>D 2社以下である</p>	A	<p>教育振興会総会の案内にあわせインターンシップ受入の可否を調査したところ、4つの企業、2つの役場から受入可能との返事をいただいた。これまでインターンシップを実施したことのある企業を含め、8つの職場から選択しインターンシップを実施することができた。</p> <p>今後も企業見学等を行いながら、会員企業と学校との繋がりを深めていきたい。</p>
学校関係者評価委員会の評価		<p>進路実現のために保護者との連携はどうしているのか。支援の進め方を工夫して就業はもちろん、離職しないように努めてもらいたい。</p> <p>アルバイトを卒業後の就職につなげるような指導も大切ではないか。</p>		
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		<p>来年度も企業開拓、企業見学等を行いながら、インターンシップも実施し就業への意欲・関心を高めたい。</p> <p>進路実現へ向けても全員が希望の職種に就職できるよう進路指導にも力をいれる。</p>		

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
4 基本的な生活習慣の確立に努め、心身ともに健康な体をつくる。	① 欠席・遅刻・早退を減らすために、生徒・保護者へのはたらきかけや、雇用主への協力依頼を行う。	前年度に比べて、意識的に欠席・遅刻・早退を減らすことができた生徒の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C	1月末に行ったアンケート調査結果では、意識して欠席・遅刻・早退を減らそうと取り組んだ生徒の割合は75%だった。 また、今年度の欠席・遅刻・早退状況（1日平均）は、欠席3.7人、遅刻2.2人、早退0.6人だった。長期欠席の生徒や基本的な生活習慣に問題がある一部の生徒の欠席・遅刻・早退が多かったことが原因である。 次年度も意識を高める工夫や基本的な生活習慣に問題のある生徒に対する継続した指導が必要である。
	② ストレスマネジメント教育を継続し、ストレスへの対処能力の向上をめざす。	学校が楽しいと感じている生徒の割合が、 A 70%以上である B 55%以上である C 40%以上である D 40%未満である	B	2月の生活習慣に関する調査の集計結果によると、学校が楽しいと感じている生徒は57%だった。割合的に変化はなかったが、「学校が楽しくないと感じていた」と答えた生徒が8人から4人に減少しており、大きな改善ではないかと捉えている。 今後も多角的に地道な取り組みを継続していくことが大切である。
学校関係者評価委員会の評価	学校に行きたくなるような環境を作るようにしてもらいたい。 何を目標にするかを明確に分からせる必要があるのではないか。そのためには、現実を教え、筋道を立てて進ませる必要がある。	学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	学校行事を見直して、生徒会及び生徒が主体となって楽しく活動できるように工夫をする。 基本的な生活習慣の確立を目指すため、欠席、遅刻の多い生徒については、個人面談等を行い本人への指導はもちろん、保護者や雇用主の協力や理解を得られるよう努める。	